

令和6年度 調布市立多摩川小学校 学校経営計画（校長 上杉 潤）

学校の教育目標	
◎ 思いやりのある子<徳>	○ 自分の考えをもつ子<知>      ○ 体をきたえる子<体>
目指す学校像(ビジョン)	
<b>「令和の多摩川小学校」</b> 学校に関わるすべての人の「主体性」を育み、「自己有用感」を高める学校	
ビジョンの設定理由	◇児童の安全と健康を最優先し、教育課程の実現に向けた教育活動を行います。 ◇すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現します。 ◇自分で考えて実践する「主体性」と、実践を通じて得られる「自己有用感」を育み、思いやりのある子を育てます。 以上の課題を解決するために、目指す学校像を「令和の多摩川小学校」と設定しました。
中期的な経営目標	
① 自分と他者を価値ある存在として尊重できるようになるために、自己有用感を高められる教育を推進します。 ② 「授業改善プラン」に基づき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践し、子どもたちの学力の向上に取り組みます。 ③ 自分の課題を明確にし、健康と安全を意識した生活を送ることができるように指導・支援します。 ④ 特別支援教育を推進し、すべての児童の自己実現に向けた教育を推進します。 ⑤ 保護者・地域と協働し、子どもたちの健やかな成長を支え、郷土を愛する心を育みます。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 「自己有用感」を高めることを目標にし、授業では「個別最適な学び」の実践、行事等では「主体性」が高まる指導・支援を行い、児童の活動や行動を価値付けます。	① 学力を向上させるために、タブレット端末を効果的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を図ります。	① 「体力テスト」の結果を基に、授業や運動集会・行事を通じて体力向上の取組を図り、運動の日常化をめざします。
② 社会性を育むために子どもたちとともに学校の決まりを見直し、規律ある生活を送ることができる子どもたちを育てます。	② 児童の主体性を育むために、読書を主体的な活動であると位置付け、年2回の読書旬間や授業を中心に読書活動を推進します。	② 健康を保持するために、年2回の食育朝会と年3回のブックメニューを通じて、「食事や給食に関心をもって生活しよう」とする意識と態度を育てます。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 自己有用感を高めることができたかを児童アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	① 学習を理解できたかを児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	① 運動の日常化について児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。
② 決まりを守って生活ができたかを児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	② 読書量について児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	② 「食事や給食に関心をもって生活しよう」という意識がもてたかを児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 特別支援教育の充実	5 保護者・地域との連携	
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	
① 互いに認め合い学び合う心情を養うために、学年内の交流や異学年交流、通常級と特別支援学級との交流を行事や児童会活動、授業等を通じて積極的に行います。	① 子どもたちの健やかな成長を願い、保護者・地域と協働できるように、学校は学校便りやホームページを活用して子どもたちの様子等を保護者・地域に伝えます。	
② すべての子どもたちの支援・指導を効果的に行えるようにするために、特別支援コーディネーターを中心として組織的な対応を図ります。	② 学校運営協議会（CS協議会）の次年度設立に向けて、学校評議委員会及び学校関係者評価委員と連携を図り、準備を行います。	
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	
① 交流を通じて、互いに認め合うことができたかを児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	① 学校は、適切に情報発信ができたかどうかを学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	
② すべての子どもたちに適切な支援・指導ができたかどうかを児童・学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	② CS協議会について理解しているかを学校評価アンケートで問い、肯定的評価85%以上を目指します。	

人材育成・組織運営
○ 教職員相互に研さを積めるように、研究推進部会を中心に意図的、計画的な研修とOJTに取り組みます。 ○ 校務分掌を見直し、各部会が主体性をもって学校運営にあたることを通じて、教職員の自己有用感を高めます。